

【水道メールマガジン】第 15 号(2020 年5月)

県庁生活衛生課です／『他府県の取組み・先進事例』について

兵庫県健康福祉部生活衛生課です。

(今回は坂江が皆様にお役に立つ情報を発信いたします。)

新型コロナウイルスという聞きなれない病原体による感染症により、緊急事態宣言まで発令される未曾有の事態となりました。緊急事態宣言はすでに解除されましたが、今後、私たちの生活様式は大きく様変わりするであろうとされています。しかし、こういった状況下でも、事業者の皆様におかれましては、水道水を供給し続けなければならないことに変わりはなく、将来に向けた創意工夫が求められているのではないかと感じております。今回は、そのヒントとなるものをお届けできればと思います。



今号の話題 _____

第15号 『他府県の取組み・先進事例』について



総務省がとりまとめた資料に「水道事業・先進的取組事例集」というものがあります。

この事例集は、7つの章に分かれており、合計 38 事例が掲載されています。

そのうちの一部を以下にご紹介します。

1. 民間活力の活用

【包括的業務委託】宮城県山元町「上下水道における包括的民間委託」

【PFI】北海道夕張市「PFIによる浄水施設等の更新・維持管理及び水道窓口等業務」

【DBO】長門川水道企業団「浄水場・配水場設備の設計・修繕・更新及び運転管理業務」

2. 施設(浄水場等)の統合・廃止

大分県大分市「水道施設の統廃合」

3. 性能の合理化(スペックダウン)

埼玉県企業局「浄水場施設規模の適正化に合わせた給水区域の再編」

岩手県矢巾町「将来を見越した管路網の最適化(ダウンサイジング)」

4. 施設の長寿命化

浜松市「新たな更新基準年数の設定」

この事例集のポイントは、事例紹介のフォームとして、①事業者の行政区
域内面積、②行政区内人口、③事業区分、④施設利用率、⑤有収率、
⑥職員数、⑦営業収益費用といった基本情報から、事業のきっかけ、内容

及び効果額、今後の課題や考慮すべき点が設定されており、事例を参考とされる事業者がより比較をしやすいような工夫がされている点にあります。

当課にも、事業者の皆さまから様々な事例紹介のご依頼を受けますが、その際、「うちは町レベルなので、それと似たような団体の事例がいい。」と、
いうように、同等の事業者規模での比較をお求めになるケースが多いです。
こういった点についても、本事例集では、定型的にデータ整理されておりますので、ご検討の参考になりやすいかと考えます。

その中から、ひとつ目に止まったのが、【岩手県平泉町「料金改定(資産維持費の導入)」】の事例です。

岩手県平泉町は、行政区人口約 8,000 人、施設利用率 47.7%、職員数 2 名の小さな事業者です。事業に取り組むきっかけは、「建設改良費に充てるための資金のほとんどを企業債の借入で行っており、現行の料金水準では、健全な経営の確保が困難となる状況であったため、資産維持費を算出し料金改定を行うこととした。」ことです。平成 27 年 7 月に料金改定を行い、最終的な効果額として 18,163 千円/年を生み、これを建設改良積立金として積み立て、平成 31 年度までに着手する浄水場施設の改良及び配水池造成

工事に係る事業費の2割をまかなう見込みができました。

一方、料金改定(値上げ)に対する住民議会への説明も当然行っており、特に議会への説明として「平泉町上下水道事業運営協議会」へ、諮問する1年前に値上げに関する説明を行っています。

平泉町は、将来への更新需要に備えるため資産維持費を導入することとされましたが、他事業体が参考とする際の注意点として、「料金算定期間中の建設計画をできるだけ正確に見積もることが必要である。」と提唱しています。

その他、様々な取り組みが取り上げられておりますので、ご承知の皆様も多くおられるかとは思いますが、今一度、水道事業の将来に向けた「創意工夫」について再考いただければと思います。

出典:「水道事業・先進的取組事例集」

https://www.soumu.go.jp/main_content/000396240.pdf



発行:兵庫県健康福祉部健康局生活衛生課

tel:078-362-3256

E-mail: seikatsueiseika@pref.hyogo.lg.jp

